

# 支部紹介

## 小樽支部



### 支部長挨拶

今回、道薬誌の「支部紹介」が始まるという事でトップバッターを務めさせていただきます小樽支部長をしております桂 正俊です。日頃、北海道薬剤師会の役員並びに事務局の皆様そして道内17支部の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。



北海道薬剤師会小樽支部(以下「小樽薬剤師会」)は、道内各支部の中でも歴史は古く、明治39年に結成され今年で117周年となり、私は小樽薬剤師会の第21代目の会長となります。当会の特徴は、後志病院薬剤師会との連携が強く、学術講演会や生涯教育を多く開催しており、昔から多くの研修認定薬剤師が登録されています。また、小樽市医師会の学術講演会にも参加をし、医師会から高い評価を得ております。札幌近郊であることと会員数のバランスも良く、北海道薬剤師会からの事業も取り組みやすい地域である為、モデル事業が受けやすいと考えます。しかし、人口の減少などにより会員も減少しており、若手の薬剤師の参加も少なくなっているのが現状です。会の運営もIT化が進み情報の伝達が発達してきた一方で、会員の顔が見えづらくなり、会員とのコミュニケーションが少なくなってきたような気がします。また、チェーン薬局の会員が増え地元の開設者が減少しているため、将来の支部運営に不安を感じております。

最後に、小樽市は市町村ランキングではいつも札幌市・函館市に肩を並べる観光地ですがまだま

だ隠れた名所やグルメ情報が残されております。是非遊びに来てください。(K)

### 小樽薬剤師会の歴史

小樽市は、明治13年に北海道内初となる鉄道が手宮－札幌間に開通し、小樽港は道内各地への開拓民の上陸や物資陸揚げの港となり、昭和初期にかけて金融機関や船舶会社、商社などが進出して北海道経済の中心都市として発展した。小樽薬業史によると蝦夷地の薬草などを取引する行商人が増え、松前藩から戦火をのがれ小樽に移住するものが多く、ニシン漁だけではなく薬業も盛んになったようです。薬律が公布された翌年明治23年正月に余市小樽薬業組合なるものが結成し、その後明治25年小樽に薬律のいう薬剤師の免許取得者が現れ、第1号の薬剤師が病院に勤務した。

(小樽薬業史より)

### 小樽薬剤師会の現状

小樽薬剤師会は、小樽市・余市町・仁木町・古平町・積丹町・赤井川村の1市4町1村の地域で小樽に保健所はあるが、後志振興局は倶知安町にあるため支部内に北海道の振興局がない地域です。



会員数は206名(令和5年5月1日現在)です。20年前は250名を超える会員がいましたが、北海道薬科大学(現北海道科学大学)の移転や小樽市の人口減少などにより、徐々に会員が減少しております。

広域病院として、小樽市立病院・小樽協会病院・済生会小樽病院・小樽掖済会病院・余市協会病院の5施設あり、医薬品の製造業者として共成製薬株が開発した、バリウム造影剤やアルロイドGが現在も全国の病院・薬局に販売されております。(K)

### 学校薬剤師会の発祥の地

昭和5年3月に小樽市のある小学校で「誤薬事件」なる生徒死亡事故が起きた。風邪の女子生徒(11歳)が薬をのまされ、死亡した事件である。生徒の容体が悪く、担任教師がたまたま病欠中の学

校衛生婦宅に小使を走らせ手当法を聞きに遣った。風邪ならアスピリンとの伝言を受けた担任教員が医務室にある「アスピリン」をのませたところ、生徒は突然苦悶し遂に人事不省になり、二日後に絶命した。前代未聞のこと故、責任追及の問題となり、世論を湧かせた。何しろ、風邪薬と猛毒の昇汞が雑然と置かれるような管理状況、無資格者が毒物を扱うことが問題とされ、法整備の必要性が高まった。早速、北海道と小樽市から昭和6年5月5日に8人の学校薬剤師が委嘱され、全国で初めての学校薬剤師が誕生した。学校薬剤師の事業として、学校所要薬品の選別と管理の徹底を期し、薬剤師用の手引として『小樽市小学校薬品準方』を作製した。(K)

### 北海道薬科大学の誕生

昭和48年5月小樽市桂岡に北海道薬科大学設立の件がもち上がり地元小樽薬剤師会の意向を問うところがあった。それを受けて当時の文部大臣に対し、北海道における薬学関係高等教育はまことに乏しく北海道大学薬学部(定員80名)あるのみで、このため将来薬学家たらんとする者の殆どが道外教育機関に依存せざるを得ない現状で、我が北海道の地域社会に大きく貢献することは明白であり本薬剤師会としても大学設立の趣旨に賛同し出来る限りの支援協力をするという要望書を提出した。翌49年5月校舎竣工と共に開学となり7日開学式、8日入学式を挙げた、入学者170名。

(小樽薬業史より)

### 薬物乱用防止活動を行って40年

小樽薬剤師会では、昭和60年より小樽市と小樽薬業組合、小樽市学校薬剤師会、地元4つのライオンズクラブ、北海道薬物乱用防止指導員後志地区協議会の協力により「ダメ。ゼッタイ。麻薬・覚せい剤撲滅写真・パネル展」を小樽駅前長崎屋で毎年開催しております。

その他に過去に中学生が覚せい剤で補導されたことがあり、急遽市内の中学校・高校に出前パネル展等を行うとともに、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターのご協力教材を積んだバスを小樽にお呼びし、北海道薬科大学や近郊のショッピングセンターの前で麻薬・覚せい剤乱用撲滅キャ



ンペーンを実施しております。

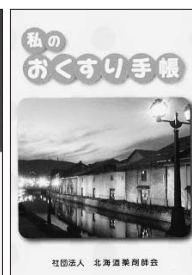
その功績が認められ厚生労働省から3度感謝状をいただいております。(K)

### お薬手帳の推進

「お薬手帳」は、平成5年、日本国内の患者15人が別々の病院から抗ウイルス剤と抗癌剤の処方を受け、併用使用して死亡した事件、「ソリブジン事件」をきっかけとして導入されました。発祥の地は、東大病院のようで、平成6年から東大病院外来診療において、薬歴の一元管理を目的に作成した「処方カード」を処方せんに印字し配布したことが始まりだそうです。

平成7年～8年にかけて、埼玉県の朝霞地区薬剤師会が当時の厚生省による「医薬分業モデル地区」に指定された際に、薬の相互作用による健康被害から患者を守るために考案したものであったが、同時に北海道薬剤師会でも厚生省によるモデル事業で、小樽市・帯広市・岩見沢市が選ばれ、お薬手帳の推進事業が始まる。

小樽薬剤師会では小樽市保健所と共同し「お薬の手帳」(写真下)を作成したが、当時医師会からの反対があり、普及啓発には困難を極めた。しかし、NHKの道内ニュースで取り上げられると「患者がどのような薬をどのくらいの期間使っているのか」を確認するために使用することや「複数の病院を受診している患者の薬物相互作用(飲み合わせ)の管理」にも用いられるということが理解され、次第に患者が持って来るようになった。その後、平成12年に薬の併用注意や禁忌などを確認する効果が期待され、厚生労働省の制度となり、調剤報酬として評価されるようになった。小樽では、「お薬手帳」は点数が付いたから行うのではなく、それ以前から医師と薬剤師そして患者の情報交換のツールとして活用してまいりました。北海道薬剤師会で作成した「私のおくすり手帳」(写真下)では、小樽運河の写真を使っただき市民に愛される「お薬手帳」を目指しております。(K)



## 支部会員へのアピール

小樽薬剤師会は、医療業界の未来を共に築いていくための架け橋として、精力的な活動を展開しています。同時に、薬剤師がより充実した専門的なキャリアを築けるよう、様々な取り組みや活動を展開しています。様々な機会を通じて魅力的な世界を広げ、お互いに刺激を受けながら成長し合う場を提供することを使命としています。

その一環として、当支部では生涯教育研修会を定期的に開催しています。常に変化し続ける医療業界において、専門知識のアップデートや最新の医薬品情報の共有は、質の高い医療提供を維持する上で不可欠です。幅広いテーマに関する研修会を提供することで、会員の皆様が最新のトレンドに追いつき、専門性を高める場を提供しています。



また、年に一度の三師会(医師・歯科医師との交流会)を開催し、三師対抗の麻雀大会(写真左)とボーリング大会(写真右)が長年行われているとともに、最近の医療業界や小樽市行政の講演会が合わせて開催され、地域の諸問題等の話題を通じて、異なる専門家とのコミュニケーションを深め、連携を強化することで、より効果的な医療チームを形成できるよう取り組んでいます。ここ数年はコロナ禍で開催されていませんでしたが、今年度再開される事となりました。これにより、患者様により良いケアを提供できるだけでなく、会員皆様のキャリアにも新たな展望を開くことができるのではないかと考えます。その他にも、様々な研修会や最近ではゴルフコンペ等も企画しています。

2025年をめどに厚生労働省が、医療や介護、生活支援、福祉サービスなどを一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築を目指していることをうけ、小樽市では三師会と行政に加え医療機関や地域包括支援センターをはじめとする介護サービス事業者等の連携を推進するための「おたる地域包括ビジョン協議会」を設立しています。おたる地域包括ビジョン協議会の主な事業として、NTTと共同でICT(情報通信技術)を活用し、多

職種チームが一体となって患者(利用者)様をケアするため、「おたるワンチーム」として活動しています。おたるワンチームのメリットとして、多職種が情報を共有し、切れ目のない在宅医療・介護サービスの提供が可能となります。また、写真撮影機能の活用などで、簡単に状況(病状)の共有が可能となります。医療・介護の質の向上により、可能な限り住み慣れた地域で過ごせるようになり、医療・介護サービス利用者の皆様の満足度向上にもつながります。その他の協議会の活動として後志医療介護連携ガイドの作成、地域住民啓発事業として多職種が合同で開催する「小樽介護予防フェア(いきいき健康まつり)」(写真左)をウイングベイ小樽で毎年開催しています。また、医療介護関係者研修を定期的に開催して他職種のアピールポイントや問題点を紹介し、楽しくお互いの職能を理解するイベント(写真右)を開催しています。



また当支部では、病院薬剤師と薬局薬剤師の交流が盛んであり、気軽に声をかけやすい関係性が築かれており、情報交換やベストプラクティスの共有を積極的に行っています。

薬剤師会の会員であることは、単なる情報収集だけでなく、自己成長や職業の魅力を高めるためのチャンスです。小樽薬剤師会は、会員皆様がそのチャンスを最大限に活用できるよう、継続的にサポートすることを大切にしています。皆様の成長とキャリアの向上を共に目指し、より良い未来のために共に歩んでまいります。(T)

## 年次予定

4月小樽支部定期総会、6月余市部会定期総会、秋頃小樽市三師会総会、1月新年交礼会が例年の大きなイベントです。また時季は不定ですが会員相互の親睦を図るためゴルフコンペも開催しております。

理事会は現在23名の理事で構成され、毎月第3火曜日に招集されています。(N)

## 部・委員会活動等

学術部では後志病院薬剤師会と合同で講演会を企画。生涯教育委員会では毎月研修会が企画され、多くの会員が参加しております。この研修会は会員であれば無料で参加でき、研修認定薬剤師取得の一助を担っています。

薬物乱用防止委員会では年1回商業施設のイベント空間を借り、市民向けにパネル展を毎年開催しています。令和2年にはこれまで札幌で行われていた事業を「薬物乱用防止キャンペーンin北海道」と名称を変え全道各地で順に開催する事となりましたが、その初回を小樽で開催しました。

総務部や広域病院分業委員会では災害時における連絡手段、開局状況の確認を行うため連絡網やショートメールを利用した緊急時訓練を年数回行っております。会員薬局・管理薬剤師の異動などもあります。おおむね皆様のご協力の下スムーズに実施できております。

情報の迅速な提供も重要であり、ホームページ(HP)に加えてサークルスクエア®により情報を2本立てで発信しています。重複した内容になりますが、それぞれの利点を生かすことでより多くの会員へ周知できると考えています。メールにて更新内容を迅速にお届けできるようにもしております。また昨今の医薬品流通状況の悪化もありご協力いただける会員薬局において薬品在庫の有無(一部に限る)の閲覧、不動態品の譲受、研修会情報一覧など必要と思われる情報を迅速に提供できるよう整備しております。これらの管理運営を担っているのがHP管理運営委員会、不動態対策委員会です。

夜間急病センターへは会員薬剤師の皆さんの協力により出向していただくことで毎日夜間の調剤を担う事が出来ています。この調整を行っているのが夜間急病センター運営委員会です。

健康づくり委員会では、地域住民を対象として小樽市医師会に協力し市民健康教室を開いています。また今年は市内の町内会に対してかかりつけ薬剤師啓発のためのチラシを作り回覧を行いました。

広報委員会では年2～4回、広報誌である「葉包紙」を発行し、現在120号を数えています。担当委員が変わることで内容だけではなく見た目も大

きく変わりその時々編集者の特徴がよく表れていると感じます。

学校薬剤師部は市内各小中学校に担当を置き、定期検査、授業等を行っています。少人数での活動ですが、児童生徒の環境衛生の維持向上に努めています。

現在は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し日常生活も落ち着きを取り戻していますが、ワクチン接種、無料検査、治療薬に関する対策委員会を早急に立ち上げ、行政を含め他の関係団体等との調整もスムーズに行えるようにしました。

その他有志により高校への出前授業として薬剤師業務の講義、体験実習を行っています。(N)

## 支部として伝えたい思い

小樽薬剤師会は、会員の皆様により良い未来を提供し、専門的な成長と発展を支援することを使命としています。薬剤師としての役割を重要視し、その価値を最大限に発揮できるよう、情熱と熱意をもって活動しています。また、薬剤師としての専門知識を深化させるだけでなく、人間的な資質も育むことを大切に考えています。生涯教育研修会や三師会等の交流会は、専門知識の向上だけでなく、コミュニケーション能力やチームワークの重要性を理解し、実践する機会でもあります。会員の皆様は、個々のバックグラウンドや専門分野が異なっても、共通の目標を持ち、その目標に向かって協力することで、より大きな成果を上げることができるはずです。

当会は、薬剤師としての使命感を共有し、地域社会や医療現場での貢献を追求することを大切にしています。患者様の健康と幸福を支える一翼を担う存在として、常に向上心を持ち、努力し続けていけるよう、薬剤師としての尊厳を守り、倫理観を大切にすることで、信頼性と信用を築き上げることを目指しています。

当会の思いは、薬剤師の皆様が当会を通じて新たな可能性を見つけ、個人としても専門家としても充実した人生を歩んでいくことです。(T)

ここから先は肩の力を抜いてお読みください。有志によるおすすめをピックアップしてご紹介していきます。

## 小樽市指定歴史的建造物 旧岡川薬局

私達薬剤師が小樽観光として是非とも寄っていただきたいのは、「旧岡川薬局」です。岡川薬局は、昭和5年に木造3階建てで建てられた小樽で有数の「薬商売薬」の老舗で、昭和初期の代表的な木造商店建築であり、小樽市指定歴史的建造物の一つとして指定されています。岡川薬局は平成17年まで小樽市民の健康を支えてきましたが、高齢のため閉局いたしました。その後小樽市の歴史的な建物を活用しようという思いから、平成22年にカフェとしてリノベーションされ、かつての建物の活躍に対する敬意として「岡川薬局」の名前を残して観光客の人気スポットとして生まれ変わりました。現在はカフェのほかにレンタルスペースとゲストハウスが一体となったサービスを運営しており、道外の薬剤師からの問い合わせにご紹介させていただいています。

☆カフェの内装には、薬局の名残がありますので是非とも探してみたらいかがでしょうか？ (K)



当時の岡川薬局 旧岡川薬局 Café White

## 小樽の見どころ・オススメ

小樽市は昨年市政100周年を迎え、今年小樽の観光の要である小樽運河が完成して100周年を迎えます。その小樽市ですが、海や山に恵まれ、夏は海水浴やマリンスポーツや登山、冬はスキーが楽しめ、そして、四季折々の美しい景色が楽しめる素晴らしい場所です。そこでいくつかの小樽の見どころを紹介いたします。

- ・**小樽運河**：小樽運河は小樽市のシンボリックな場所で、歴史的な運河沿いにはレトロな建物やガス灯が灯り、美しい景色が広がっています。散歩や写真撮影に最適です。
- ・**天狗山**：天狗山は小樽市内にそびえる山で、山頂からの景色は素晴らしいです。ロープウェイで山頂に登り、四季折々の美しい風景を楽しむことができます。特に秋の紅葉は見事です。
- ・**小樽遊覧船**：小樽港から出発する遊覧船に乗ると、小樽の美しい海岸線を堪能できます。夏に

は海風を感じながら、冬には雪景色を楽しむことができます。

- ・**海鮮料理**：小樽は新鮮な海産物で有名で、特に海鮮料理がおすすめです。新鮮な寿司、海鮮丼、魚介のグリルなど、多彩な海の幸を楽しむことができます。
- ・**ガラス工芸**：小樽はガラス工芸でも有名で、多くのガラス工房やガラス製品のショップがあります。特にガラス細工のクオリティが高く、美しい芸術作品が豊富にあります。
- ・**雪あかり**：冬には小樽雪あかりの路 (Otaru Yuki Akari no Michi) が開催され、数千個のキャンドルでライトアップされた美しい景色が楽しめます。これは寒冷地のロマンチックなイベントの一つです。
- ・**小樽ビール**：小樽はビール醸造の伝統もあり、小樽ビール (Otaru Beer) は地元で楽しまれています。地ビールの工場見学や試飲もできます。
- ・**芸術と文化**：小樽には美術館や博物館も充実しており、地元の芸術家や歴史に触れる機会があります。

と色々ご紹介し、他にも紹介しきれないほど小樽にはたくさんの魅力がありますが、その中でも、私がオススメしたいのは小樽発祥のソウルフードでもある「あんかけ焼きそば」です。是非小樽には色々とお土産を提供するお店があるので自分好みのお店を見つけていただければと思います。また現在、小樽の代表的なお土産(ダブルフロマージュを始めとするルタオ商品、かま栄など)は空港でも購入できものが多いので、私が地方によくお土産で持って行くのは「小樽あまとう」さんのマロンコロロンです。是非小樽でしか購入出来ないお土産を一度食してみたいはいかがでしょうか。 (I)

## 観光・風景スポット

あまりガイド本でも紹介されていないだろう所としていくつか簡単にご紹介します。(写真は入れておりませんのでご自身の目でご覧になって下さい)

- ・**夜景を含めた展望スポット**：有名どころとしては毛無山・旭展望台・天狗山(ロープウェイ)。天狗山は自然の村から登るルートがお勧め。何度か訪れていますが、誰一人見かけたことはな

いほどの穴場(車必要)。手宮埠頭は毛無山の丁度反対側からの眺めを下から望む夜景。こちらもほぼ誰もいないので波の音と共に気を落ち着かせたいときにはよく訪れていました。

- ・眺望スポット：現在は立入禁止となったが桂岡にある旧薬大駐車場からの石狩湾の眺望。おたる水族館そばにあるホテルノイシュロス小樽からの眺望。夕焼けも絶景。
- ・奥沢水源地の階段式溢流路：立ち入れるかどうかはわかりませんが、行ってみたい場所です。
- ・朝里スカイループ橋：小樽から定山溪に抜ける道道1号線の朝里ダムに向かう道路にある道内初のループ橋。ダム擁壁からの景観は見事。
- ・ロータリー(円形交差点)：最後になんてこんなところに？と思うくらい珍しい道路として、全道で4つしかないロータリーが交通量のそれほど多くない桜町にあります。(他は旭川、釧路で北広島には最近できた。) (N)

・ローソク岩：余市～古平・積丹の名所といえば、札幌・小樽方面から余市に入り、日本海沿いの国道229号線を車で走っていると、右手の海側に不思議な岩(写真右)が見えてきます。余市町豊浜町の沖合約500メートルに存在する岩で、海面から45メートルを超える高さでそびえています。岩質はハイアロクラスタイトで脆い性質の為、何度か崩落が繰り返されて現在の形になったそうです。



ローソク岩はちょうど余市と古平の境界あたりから眺める事ができます。絶景スポットとして、そこへ通じる以前は狭く危険だったトンネルも崩落事故を契機に改修され、周辺道路・海岸沿いの駐車場も整備されています。

タイミング合えば、きれいな夕日をバックにまっすぐにそびえるローソク岩を拝む事が出来るでしょう。夕日が沈む黄昏時、心地よい波音に囲まれるローソク岩を見にぜひ遊びに来てください。(A)

### スイーツスポット

- ・カフェリノ：まずお勧めするこのお店は都道りからすこし外れた所にあります。店主の淹れたコーヒーはフィルターからこだわ

りがあり、粉の一部がカップの底に残りますがそれが最後いい味を出してくれます。またパティシエの奥様が作られたケーキが絶品で甘さ控えめであり、コーヒーとの相性も抜群。ガトーショコラとバイクドチーズケーキがベースとなりますが、稀に国産アカシアの蜂蜜が入手できたときのみ作られるハニームースは一口食べただけで虜となります。

- ・ミルクプラント：2つめは小樽市役所の横にあるこのお店です。地元牛乳製造メーカーから直接仕入れた牛乳を用いて作られるソフトクリームはこちらも甘さ控えめでさっぱりと食べられる一品です。休憩中、仕事帰りなどしょっちゅう食べていました。現在は経営者が変わったことと、なかなか行ける機会がなくここしばらくは味わっていません。
- ・アンデリス：3つめは住ノ江にあるこのお店。JALの機内でも提供されたこともあり、全国的にも名の知れたお店でもあります。ここでのオススメはプリン大福。雪見だいふく®のアイスもプリンにしたものを想像していただければいいかと思います。これを最初に口にしたときから大ファンになりました。ただ、直接購入したことはなくいつも手土産品として頂いています。皆様ごちそうさまでした。(N)

### 小樽のオススメ居酒屋

- ・がつや しまぎき：小樽で美味しい炉端焼きを食べるならここ！あの有名な、吉田類さんも行ったことのあるお店です。懐かしいコの字カウンターで、約100年もの間、小樽市民を魅了してきた昔懐かしいお店です。何と言っても「ポークチャップ」は絶品。今まで食べたポークチャップの中でダントツ1位は間違いありません。海の家小樽で、海鮮ではないの?!という声が聞こえるかもしれませんが、だまされたと思って食べて頂きたい一品です。もちろん、海鮮も美味しく、この日頂いたサバは脂がのり、身はふっくらとしていて、絶品。何を食べても美味しく、素晴らしいお店です。(O)





・ふじりん：美味しい日本酒と、最高の肴を求めるならここ！以前は花銀通りに店を構えておりましたが、都通りのすぐそばに移転をしました。なんととっても日本酒の品揃えが豊富で、その季節に美味しいお刺身と焼き物を出して頂けます。毎回頼む刺し盛りは、本当に美味で、隣に座った観光客の方に毎回オススメしてしまいます。(笑)  
 そしてふじりんが有名な理由の1つは、おでん。季節問わず、夏でも冬でもいつでも食べたくなってしまう、そんなおでんです。他ではあまり見ない、「岩のりのおでん」ぜひ食べてみてください。この日は、而今を頂きながら、最高の肴で、心も体も大満足でした！



(O)

## 余市のオススメ焼き鳥

・がんがら：余市の焼き鳥といえば、余市町黒川町にあるこのお店が有名です。店主がカウンターの目の前で炭火焼きしてくれるスタイルで、しっかりと火を通しながらも硬くならず、ちょうどよい食感が特徴です。カルビ串や梅しそつくねは特におすすめ。串以外ではもつ煮も人気です。店内は平日でも満席になることがあるため、予約が必要です。



余市駅から徒歩で約10分、国道から1本路地に入ったところにお店があります。のれんをくぐり、店に入ると平日にも関わらず、お客さんであふれるカウンター席。奥には小上がりがあり2テーブル。ビールはもちろんワインにもあう焼き鳥、店主との会話も弾む余市焼き鳥がんがら。ぜひ一度ご賞味下さい。

住所：余市町黒川町2丁目75

・ちなみに小樽にも店主の息子さんが開店した分店もあります。こちらもおおすすめです。(A)



串焼 涼 余市がんがら分店

住所：小樽市花園1丁目11番24号  
 スパルビル1階



## 支部の連絡先

小樽薬剤師会(北海道薬剤師会小樽支部)

〒047-0024 北海道小樽市花園2丁目4番6号  
 安心堂ビル2階

☎ 0134-29-3721 FAX 0134-65-8101

メールアドレス taruyaku@titan.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.taruyaku.com/>